

■ 令和6年8月28日 厚生委員会県内調査

1 奈良県立医科大学附属病院 高度生殖医療センター

【調査目的】高度生殖医療センターについて

【調査概要】

<概要>

◎設立等

- ・高度生殖医療センターの運用を令和6年4月1日から開始
- ・様々な先進的な治療を行う。奈良県内では初めての治療も行うが、これらの治療を近くの専門クリニックと共同で連携しながら行っていく。

◎診療内容

一般不妊治療、高度生殖医療に加え、次の治療・診療を行い、県内で不妊治療を完結できるようにする。

- 奈良県内で初の治療
 - ・卵巣組織凍結保存（がん・生殖医療の一部）
- 大学として独自に開発する診療
 - ・子宮内膜機能・細菌叢の評価
 - ・間葉系幹細胞を用いた治療
- 総合病院であることを生かした診療
 - ・持病や重篤な既往症を持つ患者の高度生殖医療
 - ・内視鏡下手術と体外受精のハイブリッド診療
 - ・精巣内精子採取をはじめとする男性不妊の治療

◎施設及び設備

○採卵室

排卵直前の卵胞から卵子を採取・胚移植後は病室で休んだ後、医師の診察後に帰宅。

○培養室

卵子・精子・受精卵を育てる場所で、高度生殖医療において最も重要な部分。
培養室は母体と同じため、常に清潔で、外光が卵に当たらないように窓はない。

○インテバイオステーション

クリーンな環境、かつ受精卵や胚の環境変化を極力軽減するために、ステージ温度調整機能により使用。胚操作や顕微受精などを実施。

○受精卵観察システム

タイムラプス培養では受精卵を培養器の中に入れたままで観察ができるため、受精卵を外に出すことによるリスク（光曝露等）やストレスを極限まで減少させることが可能。

<施設の見学>

施設を見学

<質疑応答>

Q：精神面でのサポートについて教えてほしい。

A：精神面のサポートを行う体制を整えている。

高度生殖医療センターで勤務する看護師は全て助産師であり、妊娠前の体づくり、精神状態に関して非常にたけている。



2 奈良県立医科大学 新キャンパス建設地

【調査目的】新キャンパスの整備状況について

【調査概要】

<概要>

◎施設の概要等

○新キャンパス整備について

- ・県内唯一の医育機関（医師を養成する教育機関）であるが、老朽化した建物が多く、加えて学生数の増加、大学機能の多様化による講座・領域数の増加などにより、施設の狭隘化が進んでいることから、現キャンパスの約1km南西に位置する旧奈良県農業研究開発センターの移転跡地等に新キャンパスを整備している。
- ・「教育」「研究」「診療」の全部門が集中立地している現キャンパスから、医学科の教養教育部門と看護学科が学ぶキャンパスを整備している。
- ・新キャンパス整備後の現キャンパスでは、病院施設を充実させる計画を検討している。

○新キャンパス整備の基本的な考え方

- ・ 良き医療人を育む充実した学習・教育環境の整備
医学生・看護学生の居場所を融合し、他職種連携の基盤形成
ラーニングコモンズ、医看合同講義室の設置
- ・ 多様な活動・ふれあいの場となる共有空間の設置
いこいの広場、学生広場等
- ・ 機能的で利便性の高い研究推進体制の構築
多様な授業形態に対応可能な講義室・演習室を設置
- ・ 奈良の歴史・風土を取り入れたキャンパスの整備
かつての藤原京の中に位置するという歴史的背景を踏まえ、藤原京の大極殿院とその朝廷になぞらえた講堂・図書棟や前庭を中央に配置
南側に畝傍山を望み、歴史的な町並みや景観を考慮し、周辺地域との調和のとれたキャンパスを整備

○敷地面積（R6.6.1現在）

116,548㎡（現キャンパス：104,024㎡）

○延床面積 29,196㎡

- ・講堂・図書館棟：鉄筋コンクリート造 5,828㎡
- ・講義棟：鉄筋コンクリート造 9,144㎡
- ・実習研究棟：鉄筋コンクリート造 9,223㎡
- ・体育施設棟：鉄筋コンクリート造 4,289㎡
- ・その他：廃棄物保管庫・回廊・渡り廊下

○令和7年度に新キャンパス開学（予定）

<施設の見学>

新キャンパスの建設現場を見学

<質疑応答>

Q：新キャンパスに食堂はあるのか。

A：食事をする場所は設ける。

コンビニエンスストアも配置できるように協議中。

Q：新キャンパスと病院の移動手段を教えてください。

A：新キャンパスは、医学科1年生の教養教育部門と看護学科、クラブ活動の場である。
新キャンパスと病院間は、0.8km。現在、適切な移動手段について検討中。

